

第21回宇宙民生利用部会 議事要旨

1. 日時：平成30年9月20日（木） 10:00－11:40

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

（1）委員

中須賀部会長、石田委員、遠藤委員、仁藤委員、林委員、山本委員

（2）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、行松審議官、高倉参事官、須藤参事官、山口参事官、森参事官、
滝澤参事官

（3）発表者

文部科学省 宇宙開発利用課 山之内企画官

経済産業省 宇宙産業室 浅井室長

宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 宇宙利用統括 松浦氏

4. 議事要旨

（1）概算要求の状況について

□内閣府、文部科学省、経済産業省から資料1-1、1-2、1-3に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○日本はロケット・衛星・宇宙利用・軌道上サービス等、非常に広範な分野をカバーしている。選択と集中を図る宇宙新興国もある中、日本はどのような戦略を持つべきか。

●現状、何かを切り捨てるような選択と集中より、まずは全体のパイを増やすことが重要と認識している。例えば、セキュリティ分野はもっと伸ばすべきという意見もある。また、民間資本をもっと伸ばすことや、或いは欧州のスタイルのような（一国で全てを抱えないような）海外連携を検討すること、日本流にコストを抑えた技術開発に挑戦することもあると思われる。

（2）リモートセンシング衛星とユーザーニーズについて

□内閣府、宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）、経済産業省から資料2-1、2-2、2-3に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

（リモセン衛星のあり方に関して）

○民生利用部会の今後の大きなテーマは、リモートセンシング（以下、リモセン）衛星と準天頂衛星の利活用促進となる。

○リモセン衛星については、データの継続性の観点は重要である一方、現在の文部科学省・JAXAを開発主体とするスタイルでは、ALOSを淡々とシリーズ化することは

難しい。財政も厳しい中、目的を特化したミッションとすべきか等様々な観点があるが、ALOS を題材として今後議論していきたい。

(データの提供・利用に関して)

○現在 ALOS-3 は、JAXA による買い取り（アンカーテナント）も含め、業者を介しての販売というスタイルとなる見込み。今後、古いデータはオープンにしていく等、オープン＆フリーに関する検討が進むことを期待する。

○セキュリティーニーズ以外のリモセンデータ利用はまだ市場規模が見えにくい。

○リモセン衛星は災害現場を撮影しているが、それだけでは防災ニーズを踏まえているとは言えない。撮ってほしい場所というニーズを聞き出し、撮影のトリガリング（衛星の選択）に防災のノウハウをもっと活かしてほしい。例えば、発災前後の比較ができるような継続的なデータが欲しい、といったニーズがある。

●観測ニーズを国土交通省からもらうスキーム等、ニーズを踏まえて撮影する流れもできはじめています。

○経済産業省によるオープン＆フリーの取組は、平成33年度以降に国の補助なく事業が自立運用する予定だが、急に課金が発生する等使い勝手が悪くならないようお願いしたい。データベースの維持経費、電力料金等に関して工夫が必要。

○宇宙以外分野でのデータ利用者を取り込んで育てることが重要。宇宙に限ったものではなく、広くビッグデータサイエンティストを育てるよう、他の予算事業の中で、宇宙に関するトレーニングを題材として使わせるような取組をお願いしたい。

○オープン＆フリー化の取組に、他の利用省庁に入ってもらい、官の利用ニーズにリーチできる仕組みができないか。

○アーカイブデータ（過去データ）の使い勝手を上げ、その利活用を促進する取組も求められる。（例えば気象予測は膨大な過去データの解析が必須）

(その他)

○ALOS-3 では、地上設備を主としてパスコの資金で整備したことは、民間資金の導入に関する大きな変化と認識している。

以 上